

キーワード

国連のミレニアム開発目標 (MDGs)

新しいミレニアム（千年紀）の始まりを前にした2000年9月、国連ミレニアム・サミットがニューヨークで開催され、日本を含む189の加盟国代表は、21世紀の国際社会の目標として「国連ミレニアム宣言」を採択。この国連ミレニアム宣言を受けてまとめられたものが「ミレニアム開発目標」で、「2015年までに世界の貧困を半減する」ことなどをめざした8つの目標から構成される。国連では、21のターゲット（詳細な目標）と60の指標を通してその進捗度を測定している。

国連のミレニアム開発目標 (MDGs) 8つの目標



目標1 貧困や飢餓をなくそう！



目標2 小学校に通えるようにしよう！



目標3 性による差別をなくそう！



目標4 赤ちゃんをまもろう！



目標5 お母さんをまもろう！



目標6 病気をふせこう！



目標7 環境をよくしよう！

具体的なターゲットとしては、「持続可能な開発の原則を各国の政策や戦略に反映させ、環境資源の喪失を阻止し、回復を図る」「2015年までに、安全な飲料水と基礎的な衛生設備を継続的に利用できない人々の割合を半減させる」など。国連の報告などによると、世界の森林面積は2000年から2010年にかけて年間約1,300万 ha 減少する一方、年間700万 ha 以上の増加がみられ、結果的に年間520万 ha の純減少面積となった。また、安全な飲み水にアクセスできる途上国の人口の割合は71%だったが、2008年には84%に改善した。

例えば…

世界の森林面積

と で
-1300万ha +700万ha -500万ha



目標8 世界みんなで助け合おう！

(各目標のロゴは「(特活) ぽっとけない世界のまづしさ」が作成したもの)

ODA Official Development Assistance (政府開発援助)

政府または政府機関が行う開発途上国の経済・社会の発展や福祉の向上のための資金や技術提供による協力。

持続可能な開発

環境や資源という土台があってこそ開発は成り立つものとし、将来にわたって発展していくためには環境と開発を不可分のものとする考え方。

地球サミット

1992年にリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」の通称。「持続可能な開発」という理念に基づき、「環境と開発に関するリオ宣言」や行動計画「アジェンダ21」が採択された。2002年、ヨハネスブルグでの「持続可能な開発に関する世界首脳会議」（「リオ+10」）を経て、2012年、再びリオデジャネイロで「リオ+20」が開催される。

世界の『貧しい』を半分に。 MDGs2015キャンペーン

MDGsを知るためのイベントや「MDGs2015まとめて募金」を実施



するほか、ツイッターを活用し、MDGs達成に向けた「思い」を募集・紹介。関連企画「地球のごはんの日」では、途上国の問題と日本人の食生活との意外なつながりを紹介する。

「日本は食料の6割を海外からの輸入に頼っていますが、その食材や原料の中には、現地の自然を破壊して栽培されたものや、学校に行けない子どもたちが働いて収穫されたものがあることが分かっています。途上国の問題の一つが先進国にあるとすれば、毎日の生活を見直すなど日本人一人一人の行動力こそ国際環境協力の第一歩といえます」(山口誠史・JANIC 事務局長)



▶「地球のごはんの日」パンフレット